

水循環に係る官民連携の取組推進 ～良好な水環境の保全・活用に向けて～

環境省 水・大気環境局 環境管理課 課長補佐 あかみち ま ゆ
赤道 麻由

1. はじめに

水循環基本法では、水循環に関する施策についての基本理念や国、地方公共団体、事業者および国民の責務が示され、健全な水循環の維持・回復のための取組をそれぞれの役割の下に積極的に推進するとともに、関係者は相互に連携を図りながら協力するよう努めることとされています。

環境省では、水循環基本法の趣旨を踏まえ、健全な水循環の維持・回復に関する民間企業等の主体的・自発的・積極的な取組の促進を図るための連携協力の場として、官民連携のプラットフォームを立ち上げ、さまざまな取組を通じて普及啓発活動を進めています。プラットフォームの参加企業・団体数は、令和7年3月時点で520団体に達するなど年々増加しており、現在も活動の輪が広がっています。

本稿では、プラットフォームを通じた水循環の普及啓発に係る官民連携の取組と、良好な水環境の保全・活用に向けた新たな取組について紹介します。

2. 水循環の普及啓発に係る官民連携イベントの開催

プラットフォームを通じた主な活動としては、健全な水循環の普及啓発に係る官民連携イベントの開催、水循環に関する各種情報の発信を行っています。

(1) グッドプラクティス塾

民間企業や地方公共団体等が「水」に関する互いのグッドプラクティスを共有し、それぞれの取組をブラッシュアップする場として、令和元年度にグッドプラクティス塾（図－1）を立ち上げ、これまでに計16回開催し、情報共有・好事例の横展開等を行っています。

令和4、5年度のグッドプラクティス塾では、「水辺の保全・活用における連携の新たな形」をテーマとし、企業、地方公共団体、教育・研究機関等、あらゆるステークホルダーの連携による水辺の保全・活用の取組を事例に、取組段階での課題やインセンティブ等を共有するとともに、企業、地方公共団体、教育・研究機関等がどのような役割分担でどのように連携できるのか等を議論しました。

令和6年度のグッドプラクティス塾では、流域連携をテーマとしつつ、「ネイチャーポジティブ

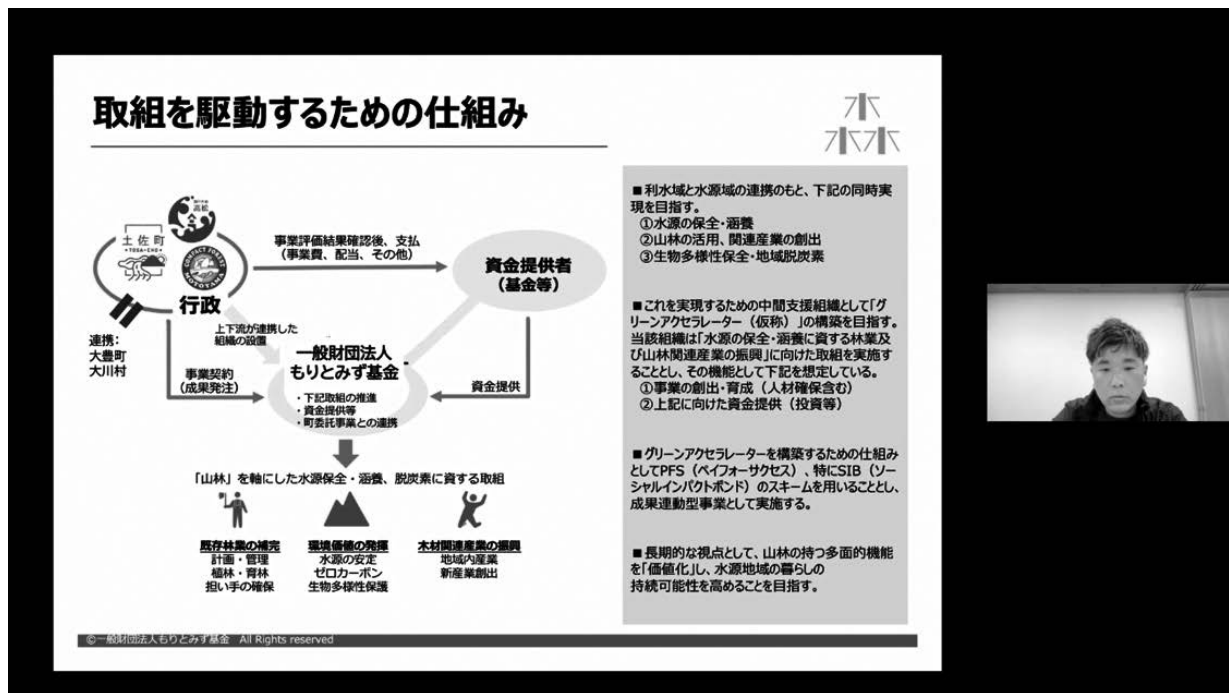


図-1 グッドプラクティス塾

×ウォーターポジティブ ～流域水環境の上流・下流の統合的な取組～」と題し、有識者や企業等の3名の方々に事例発表をいただき、水循環の定量的評価とそれを活用した仕組みや、企業連携のきっかけやポイントなどについて意見交換を行いました。参加者からも今後取り組むべき流域水環境の具体的な取組について質疑が行われ、活発な議論が行われました。

(2) シンポジウム

健全な水循環や水環境について、有識者や地方公共団体、さまざまな活動を行う団体の皆さまと、水をテーマにパネルディスカッション等を行うシンポジウムを開催しています。

令和6年12月にオンラインで開催したシンポジウム「良好な環境創出シンポジウム～水環境を生かした地域の魅力度向上の輪を広げよう～」では、300名を超える参加がありました。

本シンポジウムでは、新たな水環境管理の取組として、水環境保全・活用により、地域住民のウェルビーイングや地域の魅力度を向上させる取組について、地方公共団体等の3団体から事例を紹介いただき、「水環境を生かした地域の魅力度向

上を実現するために必要な取組とは」をテーマに、地域住民に良好な水環境の価値・魅力を認識いただくことや、さまざまな関係者が連携した取組の促進についての重要性について、有識者を交え議論しました。

(3) CDP 共催セミナー

平成27年度から、気候変動や水リスクなどの環境分野に取り組む国際NGOであるCDPと連携し、民間企業等の水リスクに関する取組の推進を目的としたセミナーを開催しています。CDPは、企業や地方公共団体等に環境に係る質問書を送付し、その結果を取りまとめて共通の尺度で分析・評価しており、企業や地方公共団体等の回答の公開を通じて、持続可能な経済の実現に取り組んでいます。

地球は「気候変動」、「生物多様性の損失」、「汚染」という三つの危機に直面しており、水害の頻発や渇水の深刻化も懸念される中、企業や投資家において、水リスクの管理が重要という考えが広まっています。そのような中、企業が消費する水資源よりも、多くの水を供給する「ウォーターポジティブ」の考え方が、国際的に広まりつつあり



写真-1 CDP ウォーター×環境省 Water Project セミナー

ます。

こうした状況を踏まえ、令和6年度の「CDP ウォーター×環境省 Water Project セミナー」(写真-1)では、TNFD などグローバルの枠組みに基づく水関連情報開示のベストプラクティスや、ウォーターポジティブに向けた実践としてネイチャー SBTs の活用等をテーマに、国、企業、地方公共団体などさまざまな立場の登壇者から話題を提供いただき、議論しました。会場約 100 名、オンラインは 1,000 名を超える参加がありました。

3. 良好な環境の創出事業

環境省では、規制等による施策と並行して、これまで「名水百選」や「平成の名水百選」、「残したい“日本の音風景百選”」などにより、健全な水循環の維持・回復についての理解醸成や、豊かな水辺、星空、音の風景等、地域特有の五感で感じる自然や文化といった「良好な環境」の保全にも取り組んできました。しかし、各種認定を受けた「良好な環境」が荒廃しつつある地域や、良好な環境の保全活動の継続が、資金不足や担い手不足等により困難となる地域があります。

このような状況の中、地域における「良好な環境」を保全するだけでなく、積極的に再生・創出することの重要性が高まっています。さらに、保全・再生・創出した良好な環境を持続可能な形で利活用することにより、地域課題を解決し、人々のウェルビーイングや地域の魅力度の向上、地域活性化を実現することへの期待が高まっています(図-2)。

令和6年5月に閣議決定された「第六次環境基

- 「良好な環境」の創出と持続可能な利用を促進
- 国民のウェルビーイングや地域の魅力度の向上、持続可能な観光等の地域活性化、ネイチャーポジティブやOECM※1への貢献により、水・大気環境行政による持続可能な社会を構築

・豊かな水辺や星空、音の風景等、地域特有の自然や文化の保全により、住民のWell-being向上と観光等の地域活性化を実現するモデルを構築

※1 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域



豊かな水辺の活用



星空観察を通じた星空の保護



水路のせせらぎの音



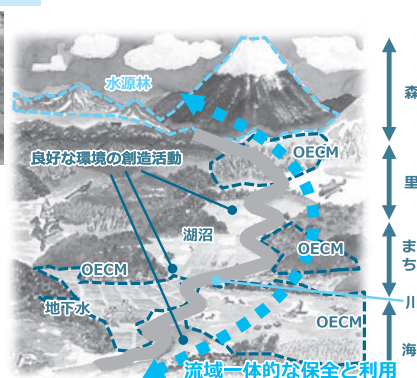
山々にこだまする鐘の音



ホタルの里の水辺保全



ラベンダー香る並木道



・水道水源となる森や川から、里・まち・海に至るまで、OECMも活用した保全と利用の取組を支援・連結し、流域一体的なモデルを構築

・TNFD※2、ウォーターポジティブ※3の動向を踏まえ、水資源リスクへの対応等、良好な環境の創造の取組が企業の価値向上に資するよう、情報開示等を促進

※2 自然関連財務情報開示タスクフォース

※3 事業で消費するよりも多くの淡水資源を供給する考え方

図-2 「良好な環境」の創出

本計画」では、豊かな水辺、星空、音の風景等、地域特有の自然資本や文化の保全により、地域住民のウェルビーイングの向上と地域活性化を実現する取組、水質管理のみならず生物多様性の保全や地域づくり等にも資する総合的な水環境管理を目指すための取組を推進することとされています。

令和6年8月に閣議決定された「水循環基本計画」においても、将来及び各地域のニーズに応じた生活環境の保全に関する環境基準等の在り方の検討、豊かな水辺や湧水などの地域特有の良好な水環境の保全と創出等に取り組んでいく必要があるとされています。

これらのことから、環境省では、水環境の保全と活用により、豊かな水辺等の良好な環境を生かした地域住民のウェルビーイングや地域の魅力度の向上、観光やそば、酒造り等の地場産業の振興を促進し、地域活性化を実現するためのモデル事業を令和5年度より実施しています。

令和5年度は、「良好な水循環・水環境創出活動推進モデル事業」として3件を選定（図-3）し、地元住民と来訪者が一体となった水環境保全

活動や酒造りに使われる地下水の調査等を通じた保全・管理の仕組みづくり、水の歴史や地域の関わりの情報を活用し企業等と連携した学習旅行の誘致等の取組を支援しました。

令和6年度は、「良好な環境創出活動推進モデル事業」として5件を選定（図-4）し、水質・水生生物調査を通じた地域の環境資源の掘り起こしやブランディング、良好な水環境を生かした観光・ヘルスツーリズムの検討等取組を支援しました。

令和7年度からは、過年度事業の成果と課題を踏まえ、専門家による事業内容等のコーチング、地域における水環境等保全・活用によるストーリー創出の要素も加え、「良好な水環境保全・活用モデル事業」として令和7年1月に公募し、今後5件の選定を予定しています。

本モデル事業を通じて、水環境等を保全するだけでなく、地域づくりの文脈で活用することにより、地域における関係主体の取組を促すとともに、地域の魅力度向上と地場産業や観光等の地域活性化を目指しています。

- 良好な水循環・水環境を創出するとともに、水環境を活用した生物多様性の保全や地域活性化の活動を推進するモデル事業を実施
- 今年度は49件の応募から3件を選定し、地域に根ざした総合的な水環境管理を目指す

やんばる水環境創出プロジェクト 沖縄の休日を感じる持続可能な流域マネジメント

団体：大宜味村観光協会

事業概要

（沖縄県国頭郡大宜味村）
沖縄県やんばる地域の重要な水源であり、自然観光資源「ター滝」で来訪者からも注目される平南川流域において、流域マネジメントの仕組みを活用し、地元住民と来訪者が一体となった持続可能なやんばる水環境保全活動を推進する。

実施内容

- ・ 流域水循環計画策定に向けた環境調査と利用実態調査の実施、準備会の開催
- ・ 遊びと学びの基盤となる水辺のプレイフルインフラの方針整理と体験の場としての管理水準の検討
- ・ 水辺の体験活動の開催と指導者育成、ター滝ゼロエミッション活動の推進



（平南川流域「ター滝」）

酒都・西条の地下水を育む里山活動

団体：西条・山と水的环境機構

事業概要

（広島県東広島市）
「日本三大銘醸地」広島・西条の酒造業を支える地下水の涵養域（龍王山流域）において、西条酒造協会の基金により実施してきた「山と水のグラウンドワーク」を発展させ、地域好循環システムを構築し、地下水保全・管理のための政策を検討する。

実施内容

- ・ 学校、地域の団体、企業など多様なステークホルダーとのワークショップの開催
- ・ 「山」、「里」、「水」、「酒づくり」の地域好循環システムづくり
- ・ 広島大学と連携し、龍王山流域の地下水環境の現状把握（ボーリング調査・観測井戸設置）



（山と水のグラウンドワーク後の交流会の様子）

「水が生まれる信濃おおまち」 サステナブル・タウン推進事業

団体：長野県大町市

事業概要

（長野県大町市）
信濃川水系の最上流部に位置する大町市において、発電、灌漑、生活用水に利用されてきた水の歴史や水利体系、人や地域との関わりといった情報を保存・活用するとともに、企業等と連携して環境教育の展開や学習旅行の誘致を図る。

実施内容

- ・ 水資源情報のデジタルアーカイブ化、水利施設等の動画撮影、学習旅行のコンテンツ増強
- ・ 「大町『水の学校』SDGs 探究学習」プログラムのガイド養成と学習旅行用ガイドブック作成、企業と連携した学習旅行等の誘致
- ・ 水の価値の見える化の検討



（大町市最大の水源「矢沢源流」）

図-3 令和5年度 良好な水循環・水環境創出活動推進モデル事業

○ 豊かな水辺等の保全・活用により良好な環境を創出するとともに、国民のウェルビーイングや地域の魅力度の向上、地域活性化を推進するモデル事業を実施。（令和6年度は17件の応募から5件を選定）

磐梯町名水PR事業

事業概要

「昭和の名水百選」に選定された磐梯西山麓湧水群を有する磐梯町の歴史的な湧水や井戸水等の水質の実態を改めて調査し、おいしい水指標値等の科学的根拠を示すことで「名水のまち」としての認知向上・他地域との差別化を目指す。

（団体：磐梯町）

実施内容

- ・ 町内の水道水源や湧水・井戸水等の水質・成分・歴史的背景の調査分析の実施
- ・ 調査結果等を発信する名水シンポジウムの開催
- ・ 名水 P R 動画等の普及啓発ツールの作成

（福島県耶麻郡磐梯町）



さめがわ良好な環境活動推進事業

事業概要

源流の里鮫川村の、豊かな自然環境と村民の地域への愛着度との因果関係を統計的因果推論で明らかにし「村の強み」をデータ分析する。併せて水生生物の調査のうえで、その村の強みを地元子どもたちへの環境教育や関係人口創出事業に活用していく。

（団体：鮫川村）

実施内容

- ・ 統計的因果推論を用いた村への愛着や定住意欲に与える豊かな自然環境の寄与に関する定量評価の実施
- ・ 水生生物環境DNA調査・鳴き声調査の実施と関係人口創出に向けた普及啓発ツールの作成

（福島県東白川郡鮫川村）



那珂川水系最上流部における農業生態系の保全活動

事業概要

那珂川水系最上流部において、水田やため池などから構成される農業生態系を保全・再生・創造することにより、「絶滅危惧種等の生息環境の創出」、「農作物の高付加価値化」、「災害に対するレジリエンス機能の強化」が相乗的に生み出されることを目指す。

（団体：那須塩原市）

実施内容

- ・ 地元高校・農家・ため池管理者等と連携し、ため池調査・環境整備による絶滅危惧種の生息環境創出とその生育適地ポテンシャルマップの作成
- ・ 様々な主体と連携した農業生態系保全の取組による農作物のブランディング化の試行

（栃木県那須塩原市）



森と水の共生・岩魚養殖と水環境体験ツアー

事業概要

従来より小海町で取り組んできた「鰻うまちこみ事業」より展開してきたヘルスツーリズムプログラムを基盤として、森林の保全・利活用や養殖事業にフォーカスした新しいツアーコンテンツを地域の事業者と連携して造成し、関係人口による環境保全活動モデルを構築する。

（団体：株式会社さどゆめ・小海町）

実施内容

- ・ 宿泊客を対象とした環境や湧水保全に関するツアー造成およびモデルツアーの実施
- ・ 地域の環境保全意識を高めるためのワークショップ、セミナーを開催し、地元学校や地域住民等と担い手づくりの意見交換の実施

（長野県南佐久郡小海町）



修善の森ヘルスツーリズムプロジェクト

事業概要

伊豆市修善寺の中心地に接する里山「半経寺山」の豊かな自然環境と、共同浴場を介した温泉文化に係るヘルスツーリズムの体験プログラムを造成し、参加者の健康効果の向上、里山環境の改善、地域の温泉文化の維持それぞれを実現を目指す。

（団体：特定非営利活動法人ホールアース自然学校）

実施内容

- ・ 里山整備（土壌の通気・透水性を高める環境改善施工）の実施
- ・ 森林整備作業と森林の癒し効果の体験と、温泉入浴を組み合わせ、人も自然も地域も健やかになる体験プログラムの開発と普及啓発ツールの作成

（静岡県伊豆市）



図ー4 令和6年度 良好な環境創出活動推進モデル事業

4. おわりに

環境省では、今回紹介した取組を通じて、地域におけるさまざまな関係者の良好な水環境の保全・活用の活動の輪を広げ、地域の魅力度向上、地域活性化を実現してまいります。

また、良好な水環境等の保全・活用においては、市民参加の水辺の調査活動の推進や、水質に加え、景観や生き物などの多面的な水環境モニタ

リングなどの視点も必要となります。

そのため、今後これらの水環境関係の環境活動を一体的に推進し、各事業の情報共有や、シナジー効果を創出していくための仕組みや、地域と良好な水環境の保全・活動を行う団体の活動の連携を促していくような場の創出についても、検討していく予定です。

参考：環境省 官民連携プラットフォーム

<https://www.env.go.jp/water/project/>

